

## 市政のここが聞きたい

- 自民清風会
  - ・将来まで自律した状態が続く都市経営
  - ・地域で支えあい安全に暮らせるまちづくり
  - ・健康やかに安心して暮らせるまちづくり
  - ・自然と調和した環境にやさしいまちづくり
  - ・賑わいと活力あるまちづくり
  - ・快適で魅力あるまちづくり
  - ・未来を拓く人を育むまちづくり
  - ゆうあい21
    - ・地域で支えあい安全に暮らせるまちづくり
    - ・健康やかに安心して暮らせるまちづくり
    - ・自然と調和した環境にやさしいまちづくり
    - ・賑わいと活力あるまちづくり
    - ・快適で魅力あるまちづくり
    - ・未来を拓く人を育むまちづくり
  - ・将来まで自律した状態が続く都市経営
  - 日本一愛知の会 岡崎
    - ・地方議会改革
    - ・市民生活・地域社会の充実
    - ・保健・医療・福祉の充実
    - ・経済の振興
    - ・都市基盤・生活基盤の整備
    - ・教育・文化の振興
    - ・自律した都市経営の実践
  - 公明党
    - ・平成23年度予算編成と行財政運営
    - ・福祉課題
    - ・子供支援対策
    - ・本市のDV対応
    - ・がん対策
    - ・市民病院
    - ・災害対策
    - ・観光活性化
    - ・多文化共生の充実
    - ・中小企業支援及び雇用対策
    - ・環境行政
    - ・森林行政
    - ・教育行政

# 代表質問

3月定例会では、会派を代表して、市政の課題や重要事業などについて質問がありました。なお、太字の質問項目を掲載しています。

### 自民清風会

■小野 政明

#### 賑わいと活力あるまちづくり

まちなみ

**問** 観光が経済活動にもたらす波及効果は極めて大きく、国内外からの観光交流人口の拡大による地域経済の活性化に大きな期待が寄せられている。本市の新たな観光振興策の取り組みについて伺う。

**答** 国は平成22年6月に発表した新成長戦略において、観光を大きな柱の一つに掲げている。本市としても、国・県や近隣の自治体などと連携を図り、観光振興策を展開していく。具体的には、



武将隊で使用する紙甲冑

「三河家康公の旅 歓迎団」として中国のマスコミ関係者を招いて宣伝活動を行うほか、多言語の観光ガイドブックやプロモーションDVDを活用した誘致活動、案内表示の多言語化などに取り組む。また、22年度に製作したオリジナルの紙甲冑を活用し、家康公と徳川四天王などによる武将隊が岡崎公園の来園者等へのおもてなし事業を展開する。本市の持つ高い観光ポテンシャルを活用し、岡崎ならではの心のこもったおもてなしができるよう、商工会議所や市民と一緒に知恵を絞っていきたい。

**問** 豊橋市内の養鶏場で鳥インフルエンザが発生した際、本市でも対策本部を立ち上げたが、発生情報を得た後の対策と、今後の取り組み方針について伺う。

**答** 鳥インフルエンザの発生情報が入った場合、岡崎市高病原性鳥インフルエンザ防疫対策本部設置要綱に基づき部会を開催し、各部署での必要な措置について協議し対応する。主な対策として、市のホームページや相談窓口の設置などにより情報提供や注意喚起を行う。また市内で発生した場合、発生農場での鶏の殺処分や消毒、焼却・埋却などの防疫措置

は、県が主導するため、人員などの協力要請に対して積極的に連携を図る。今後の取り組みについては、県の家畜保健衛生所と連携し、養鶏農家に対して発生防止のための日常的な対策や衛生管理の徹底を要請していく。また市内で発生した場合に迅速な対応が取れるよう情報収集に努め、県や庁内関係各課との連絡を取り、平常時から全庁的に体制を整えて対処していく。

#### 快適で魅力あるまちづくり

まちなみ

**問** 高齢社会に対応した暮らしためには、誰もが安心して安全に利用できる移動手段の確保が大きな課題であると考えますが、現状と今後の取り組みについて伺う。

**答** 20年度からの3カ年で実施している地域公共交通活性化・再生総合事業では、市内の主要な交通拠点と市民病院を結ぶ基幹バスネットワークの整備を行うとともに、額田地域をモデルに、住民組織との協働により小学校の統廃合による児童の通学にも対応した乗合タクシーなどの運行、更には、バス路線の廃止申し出のあった地域などにおいて、交通事業



おかげさすエクスプレス

者との協議により、地域の特性や需要にあった改善をする取り組みなどを進めてきている。今後の課題としては、これまでの取り組みを踏まえ、住民と行政、交通事業者が三位一体となって地域公共交通を守り、育てていく取り組みを展開していくことが必要と考えている。

**未来を拓く人を育むまちづくり**

**問** 児童生徒のより良い教育環境の整備と、教育の質の充実に進んでいるが、通学方法、部活動、制服などの選定方法及び建設に向けた進捗状況について伺う。

**答** 各学区で開催した説明会において、通学方法や通学路、部活動、制服に関することなど多くの質問があった。これらについては、開校1年前となる平成24年

4月に新設分離の母体校である南中学校に地元総代、PTA、教員等による開校準備委員会を発足させて検討協議を行い、新設中学校へ生徒が安心して通うことができよう、必要事項を決定していく予定である。建設に向けた進捗状況については、22年度は用地取得、実施設計、まちづくり条例に基づく事業説明会を行った。今後は工事発注に向けライフサイクルコストの縮減を図り、23年度から24年度に建設工事、25年4月の開校を目指し、関係者の理解、協力の下、計画を着実に進めていきたい。

ゆいあい21

■内藤 誠

**地域で支えあい安全に暮らせるまちづくり**

**問** 23年度より旧岡崎6支所が市民課から独立し、額田支所と同様な位置付けとなる。コミュニティ活動支援を含めた今後の支所の進むべき方向や業務内容、機能の見直しについて伺う。

**答** 本市の第6次総合計画の基本構想では、歴史的・文化的に結びつきを持ち、コミュニティとして一体感を醸成できる八つの地域（支所、本庁地域）に市域を区分し、地域との協働の下で各地域に応じたまちづくりを進める



額田支所

ことを目指しており、今後、まちづくりという役割における地域のコミュニティ活動の支援を拠点的に担っていくことが、支所の進む方向になると考えている。このために、地域の代表と行政が情報を共有し、意見交換ができる場として、新たに（仮称）地域連絡調整会議を支所に設けるとともに、庁内体制では、縦割りの弊害を無くし、一体的に支援等を行うために（仮称）地域活動支援調整会議を設置する予定で準備を進めている。

**賑わいと活力あるまちづくり**

まちづくり

**問** 金沢市との観光交流都市協定が締結され3年余りが経過し、様々な事業が行われたと思うが、市民の交流、行政の交流がどのように行われたのか。また、金沢市との観光交流の将来展望についても伺う。

**答**

協定の締結後、両市ホームページ上での情報発信や観光ボスターなどの交換を行っているほか、家康行列にミス百万石を始めとする金沢市の皆様に参加してもらっている。市民レベルでは、本市から金沢百万石まつり見学ツアーの実施や、おかげさす観光ガイドの会による訪問と交流、金沢市側からは、秋の市民まつりに物産展の出店があり、来場者と交流を図った。更に、東海北陸自動車道の全線開通を契機に、金沢市内の旅行代理店などに観光商品作りを依頼し、新たな観光コースに組み込まれた。将来展望としては、引き続き旅行商品作りの促進や新たな観光キャンペーンを展開して交流人口の拡大に努め、両地域経済の活性化につなげたい。

**快適で魅力あるまちづくり**

まちづくり

**問** 第6次総合計画の中で地域バランスの取れた公園整備や、高齢化社会に即した公園整備の推進がうたわれているが、具体的な計画について伺う。

**答** 本市では、都市公園整備や都市の緑の保全等、緑に関する総合的な計画として緑の基本計画を策定しており、公園が不足している地区では、身近な公園の整備を進めることとしている。具体的には都市公園のほか、児童遊



ユニバーサルデザインに対応した水飲み

園や子ども広場を含めた施設の配置バランスなどを考慮して、多くの市民が身近にレクリエーションが楽しめる、憩いの場を確保していくこととしている。また、高齢化社会に即した公園整備としては、既存の公園施設のバリアフリー化を進め、新たに整備する公園にも、ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが使いやすい公園の整備を進めることとしている。今後、緑の基本計画を基にアクションプランを策定していく予定であるが、社会情勢や経済状況を勘案し、より具体的な整備について検討を進めたい。

将来まで自律した

状態が続く都市経営

**問** 公共施設が真に市民のための施設となるよう、市民サービスの一層の向上と、効果的で

効率的な施設運営や管理運営費の市民負担の在り方など、改めての検討が必要と思うが、公共施設の現状と課題について伺う。

**答**

公共施設については、市民ニーズや社会的要請を基に順次配置してきたが、極端に利用率が低い施設や、特定の部屋についてはほとんど利用されていない施設があり、また多くの施設で生涯学習的な利用が主で、本来の設置目的が生かされていないと思われる状況がある。更に、平成26年には100平方メートル以上ある399施設中、市民会館や体育館など208施設が市有建築物管理保全基本方針に基づき、大規模改修の検討が必要となることから、大きな財政的負担を要することが懸念される。このため、公共施設が持つ役割や効果等を検証し、将来にわたる必要性などを見定め、将来的な見通しに立った再編を進めていかなければならないと考えている。

日本一愛知の会 岡崎

■山本 雅宏

地方議会改革

**問**

市議会では、議会基本条例を制定し、議会の見える化に踏み込み、政務調査費についても透明化してきていると考えているが、中核市や近隣の他都市と比較した現在の岡崎市の評価について伺う。



議場

**答**

市議会の評価については、大学のマニフェスト研究所による議会改革度調査が1797ある全地方議会を対象に情報公開、住民参加、機能強化の3つの点から実施され、その結果が22年末に公表された。本市議会は、調査に回答した1350余りの議会、回答率でおおよそ75%だが、この中で77位にランキングされるとい結果であり、一定の評価を受けているものと考えている。なお、中核市40市の中では6番目、三河14市の中では豊田市に次ぎ2番目の評価結果となっている。

経済の振興

**問**

公共事業において、無駄な部分はファシリティマネジメントで、必要な部分は経済活性化のために肅々と更新させていくべきであるが、市有建築物管理保全基本方針の内容について伺う。

**答**

26年に市有建築物の半数以上で築後30年を迎える。このため、市有建築物管理保全基本方針を定め、一元的に作成された中長期計画に基づく保全工事を実施し、建築物の長寿命化及び工事費の平準化を図る。保全工事を行う建築物を定めて長寿命化に効果的な工事箇所を特定することで、基本方針で定めている目標耐用年数80年に近づけて維持管理費の削減を図る。また、建築物に優先順位を設け、単年度に工事を集中させることなく財政の平準化を行う。更に、保全工事を確実に行うため、基金の活用や予算枠の確保についても定めている。今後は基本方針に基づいて、庁内で横断的なファシリティマネジメント会議を組織し、遊休施設の活用や建築物の統廃合についても検討を進める。

都市基盤・

生活基盤の整備

**問**

厳しい財政状況の中、新文化会館や子ども科学館、南部給食センター等数々の土地の取得が予想されているが、その土地と同等の土地を売却し、限られた土地の有効利用を図ることが喫緊の課題と考えるが、今後の土地利用についての考えを伺う。

**答**

本市が所有する普通財産は、13年以降、公共的な利用の見込みがなく、住宅地等に利用で



都市としての総合力の向上が図られる。今後、本市の飛躍のためには都市ブランド戦略策定が不可欠であると思われるが、見解は。

**答**

民間調査機関が22年に実施した地域ブランドに関する調査結果によると、高い成果を収めた取り組みは少数で、地域的なブランド向上に一定の効果はあったものの、地元の活性化につながったケースはまだ少ない状況のようである。また、ブランド化推進に向けて集中的に取り組む人材の確保と地域全体を巻き込むための組織体制作りが大きな課題であるとしている。しかし、次の時代に向けて本市の魅力を高め、都市間競争を勝ち抜いていく戦略を持つことも重要な視点であると考えており、全国での先進的な取り組み状況も踏まえ、本市の豊かな歴史的、文化的な資源を活用した観光や商工業などを軸とした都市ブランド戦略について、市制100周年に向けた取り組みの課題の一つとして研究していきたい。

**自律した都市経営の実践**

これにより、公共施設の再編や適正配置も念頭に置いた財産の効率的な運用を図る。新たな施設建設等により不要となった土地は積極的に売却を進めていきたい。

**問**

都市ブランド戦略策定により、都市のイメージが高まり、人、物の交流を活性化させ、



の積極的な活用が図られるよう目的別に積み立てた基金を包含し、総合的な基金として再編成し有効活用することについて見解を伺う。

**答**

ここ数年の予算要求では、公共施設の老朽化に伴う修繕整備に対するものが多いが、厳しい財政状況の中で先送りしなければならぬ状況となっている。今後、計画的に施設の維持修繕を行う方針であるが、的確に対応するためには、現行の基金を再編成し、総合的な基金に統合し、広い範囲の公共施設に適用できるように基金にすることが、財源を確保する上で有効かつ必要な考え方と感じている。現在、本市が抱える様々な課題を整理しつつ、各基金条例の設置目的に反しない範囲で活用できるのか、あるいは再編を要するののか等について、財政調整基金の在り方と併せて研究してい

**公明党**

■畔柳 敏彦

**平成23年度予算編成と行政運営**

**問**

税金の劇的な増加が見込まれない中、貯金に当たる基金

○3月定例会の動き

|     |               |
|-----|---------------|
| 1日  | 本会議           |
|     | 開会、会期決定、      |
| 2日  | 本会議           |
|     | 市長提案説明        |
| 3日  | 本会議           |
|     | 代表質問          |
| 4日  | 本会議           |
|     | 平成23年度議案説明    |
| 9日  | 本会議           |
|     | 平成23年度議案総括質疑、 |
|     | 委員会付託         |
| 10日 | 本会議           |
|     | 平成22年度議案説明、   |
|     | 質疑、討論、採決      |
| 14日 | 経済建設委員会       |
| 15日 | 福祉病院委員会       |
| 16日 | 環境教育委員会       |
| 17日 | 総務企画委員会       |
| 22日 | 行財政改革調査特別委員会  |
|     | 議会運営委員会       |
| 24日 | 議会運営委員会       |
| 28日 | 本会議           |
|     | 委員長報告、質疑、討論、  |
|     | 採決            |
|     | 追加議案の説明、質疑、   |
|     | 討論、採決、閉会      |

る。第1段階として、基金の統廃合による弾力的・有効的な活用についての本市の方向性を早い時期に示したいと考えている。

福祉課題

**問** 認知症高齢者の増加に伴い徘徊者が増加することが予測される。徘徊による事故を未然に防止するため、本市の徘徊高齢者対策の現状について伺う。また、今後についての見解は。

**答** 徘徊による事故を未然に防止するため本市では、在宅で徘徊行動のある認知症高齢者を介護している家族に対して、高齢者の早期発見と安全の確保、また家族が安心して介護できることを目的として、位置情報検索システム初期費用の助成事業を実施している。今後、認知症高齢者の増加に伴い、徘徊高齢者も増加することが予測されることから、徘徊による事故を未然に防止するためには、地域における見守り支援の強化がより必要になると考えている。国及び県が徘徊高齢者対策として、徘徊見守りSOSネットワーク構築事業の提案を行っており、本市としても今後検討していきたいと考えている。

**問** 本市の就労移行支援事業所など就労系の事業所の数、及びそれらの事業所などから一般



企業へ就職した実績について伺う。また、これらの事業所からの就労について課題や今後の対策は。

**答** 平成23年1月現在、市内の就労系事業所は就労移行支援が2事業所、労働基準法が適用される就労継続A型が3事業所、適用されない就労継続B型が16事業所であり、就労系事業所から一般企業への就職実績は、18年度9人、19年度9人、20年度13人、21年度8人という状況である。障がい者の雇用促進は、事業所の独力だけでは大きな成果を上げることが困難であり、職業安定所などとの連携や企業の理解が不可欠であると認識している。自立支援協議会就労支援専門部会での協議の具

体策として、23年度から市役所に障がい者の就業相談窓口の設置を

して、雇用先企業の開拓も実施する予定である。今後、就労支援専門部会で事業所、職業安定所との連携を図り、障がい者の雇用促進について協議していく。

災害対策

**問** 平成20年8月末豪雨災害時に本市ではどのように被災状況を把握し、その支援体制はどのようなであったか伺う。また、支援の進捗状況を的確に把握し、すべての被災者の生活再建を支援するためにも、データベース化した被災者台帳による支援システム作りが必要と考えるが見解は。

**答** 災害発生直後から、家屋の応急危険度の判定や被害調査を開始し、延べ3374棟について被害認定を行った。支援体制については、発災日から被災証明の窓口を設置し、その後被災者再建支援法に係る支援や災害見舞金の支給、税の減免措置など61項目にわたる支援メニューを取りまとめ、被災地の住民へチラシを配布するなど周知するとともに、総合相談窓口を設置した。現在、家屋の被災状況に関する調査結果のデータベース化を進めており、今後はこれを被災者台帳化して、全身的に共有することも視野に入れ、総合的な被災支援のシステム作りに取り組みたい。

に

議会を傍聴して

○初めて傍聴してみても、質問の大変さ（幅広さ・掘り下げ方法など）が分かり、議員の勉強ぶりに感心しました。岡崎市議会も安泰と感じました。

（男性 69歳）

○次年度予算に対して議会の質疑応答を傍聴しました。活発な意見交換が行われ、身近に感じられたので、非常に良い経験になりました。

（男性 34歳）

○予算に対する質疑については、内容が細かく、分からないところもありましたが、それだけ慎重、真剣に議論されているということが分かり、良かったと思います。自分の今後に役立てていきたいと思っています。

（男性 36歳）

○市議会はいつでも傍聴できるのに、人生で初めて議会を傍聴しました。23年度予算等に対する質疑応答で難しい内容でしたが、自分の住む岡崎市の予算がどのように使われているのかとても興味深く聞くことができました。機会があればまた傍聴させていただきます。

（男性 40歳）